

後継者が育つ 農産物直売所



特集

規格にしばられることなく、自分で値段をつけて農産物や加工品を販売し、先輩農家からアドバイスを受けることもできる——それが農産物直売所。直売所があることで、新規就農の若者だけでなく、定年帰農・定年前帰農、市民農園からスタートして農業を始めた人など、世代もタイプもさまざまな「後継者」が育っている。ここでは、現場ならではの新しい農業の「にない手」が生まれている。



滋賀県東近江市の大規模農家・湯ノロさん一家。「息子の就農を機に、直売所向けの品目が増えた」と孝生さん（60歳）。絢也さん（24歳）のハウスのコマツナはオカラ堆肥で栽培、母の真理子さん（49歳）がいろいろに加工し「びわこたいなか愛菜館」に出荷する（32ページ） 写真＝鈴木千佳